

令和7年度

三好市立池田小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ・規律ある授業づくりを意識し「話を聞く」「考える」「書く」などの基礎基本の定着を図る。
- ・めあて、振り返りを意識した指導を徹底する。

校長

山下 史記

学力向上推進員

大西 利江子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
●書く活動の時間が少なくなったため、書く力が明らかに低下している。 ●話を聞けていない児童が多い。 ●基礎学力が定着しない。	【低学年】学習した基礎・基本のことがきちんと定着している。 【中学年】学年相応の知識・技能を身につけ、基礎学力が定着している。 【高学年】学びを深められることができるよう、学習した基礎学力が定着している。 【特支】定期的に覚え直しに取り組む、学習したことが70％定着している。	【低学年】書く活動を積極的に取り入れ、書く習慣をつける。 【中学年】反復学習で基礎学力の向上を図ったり、視点を明確にした振り返りを書かせたりする習慣をつける。 【高学年】モジュールの時間を使い、読解や計算に取り組む習慣をつける。 【特支】短文の読み取りなどを、繰り返し行い、文章を読む習慣をつける。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ペアやグループ学習、学級全体と様々な発表の場で友達に伝えようとする児童は多い。 ●自分の考えをまとめたり、伝えたりすることが難しい。 ●語彙力が乏しいため、説明がつかない。	【低学年】思いや考えを友達に伝えることができる。 【中学年】自分の思いや考えをわかりやすく、友達に伝えることができる。 【高学年】自分で問題に取り組んで、人に聞く前に調べ、友達にわかりやすく伝えることができる。 【特支】間違いをおそれず、書いたり話したりすることができる。	【低学年】人前で発言する機会を設定する。 【中学年】ペア・グループワークを積極的に取り入れ、自分の考えや思いを伝える機会を設定する。 【高学年】課題解決に向けて、どのようなことをすればよいのか考える機会を設定する。 【特支】書き方や話し方のモデルを提示し、書いたり話したりする機会を設ける。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○素直な児童が多く、指示されたことは意欲的に頑張ろうとする。 ●姿勢の保持が難しい。 ●話を聞こうとせず、勝手に解釈をする。 ●学習の意欲が低く、試行錯誤せずぐぐにあきらめる傾向がある。 ●学習規律が身についておらず、授業が始まってから準備をしたり、手遊びをしながら話を聞いたりする児童が多い。	【低学年】聞いた内容を理解し、行動に移そうとする。 【中学年】学習に対して、粘り強く取り組もうとする。 【高学年】「わからない」に出合ったときに、人に聞く前に自分で調べようとする。 【特支】毎日宿題をし、わからない問題をそのままにせず、調べようとする。	【低学年】学習規律(池小スタンダード)の習慣化を図る。 【中学年】意欲を向上させられるようにスモールステップで課題に挑戦することの習慣化を図る。 【高学年】誰か一人が聞いてきたら、「みんなで調べよう」と学級全体で調べることの習慣化を図る。 【特支】できたときには賞賛の声掛けを繰り返し行い、話を聞く環境が整うよう習慣化を図る。			